

# 平成25～27年度間 国東市体力向上アクションプラン

## ①体力の状況

### ア 体力・運動能力調査結果(H24)

調査項目	握力		上体起こし		長座体前屈		反復横とび		20mシャトルラン		50m走		立ち幅跳び		ソフト・ハンドボール投げ	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
小1			◎	◎			○	○			◎	○	○	○	◎	◎
小2			○	○			◎	◎	○		◎	○	○	○	◎	◎
小3		◎	○	○	○		○	◎		◎	◎	◎	◎		◎	◎
小4				○			○	○			○	○	○	○	◎	◎
小5							○	○				○			◎	◎
小6							○	○		◎		○		◎	◎	◎
中1		◎		○		○	◎				○		○		◎	◎
中2		◎				○	○				○		○		◎	◎
中3		◎				○	○		○	○	○	○	○	○	◎	◎

※1) ◎は、国東市の平均が全国平均と県平均のいずれも上回っているもの  
 ※2) ○は、国東市の平均が県平均のみ上回っているもの

### イ 生活習慣等調査(H24)

調査項目	小学生		中学生		全体	
	県	市	県	市	県	市
運動への愛好度	好き					
運動・スポーツの実施状況	ほとんど毎日する(週3日以上)					
	しない					
部活動・スポーツ少年団や地域スポーツクラブへの所属状況	56	56	76	87	65	70
朝食の有無	朝食を毎日食べる					
	8時間以上					
1日の睡眠時間	6時間以上8時間未満					
	6時間未満					
	7	4	15	12	10	8

※ は、県平均を上回っているもの

### ウ 各市町村の児童生徒の特徴的な様子

- 女子の投げる能力は、小・中学校を通じて優れている。
- 全国と比べると、学年が上がるにつれ、筋持久力・全身持久力・柔軟性・俊捷性・走力・跳躍力が伸び悩んでいる。
- 部活動やスポーツ少年団に入り、熱心にスポーツに取り組む児童生徒がいる反面、ほとんど運動・スポーツをしない児童生徒も約1割いる。

### エ 体力向上に係る課題

#### ○児童生徒の課題

- 体力・運動能力調査において、県平均を上回っている調査項目の割合は51%だが、全国平均を上回っている調査項目の割合が20%に留まっている。
- 運動好きな児童生徒の割合(56%)が、県平均(61%)を下回っている。
- 運動をほとんどしない児童の割合(11%)が、県平均(9%)を上回っている。

#### ○体力向上に関して抱える組織的な課題

- 年間を通じて休み時間等を活用した体力づくりの取組を行っている学校とそうでない学校との体力運動能力に格差が生じつつある。
- 体育専科教員活用推進校、体力向上推進校の体力向上に向けた優れた実践が、他校へ広がっていないことにより、各学校における体育授業力等の向上に繋がっていない。
- 小学校と中学校の連携が十分ではなく、系統的な指導に至っていない。
- 体力づくりについては、学校・家庭・地域との連携が希薄であった。
- 体育授業等の体力づくりの取組が、自校の体力・運動能力調査結果等による児童生徒の実態に応じた組織的な実践になっていない。

## ②目標

### ア 児童生徒の体力向上に係る目標(平成27年度まで)

- 体力・運動能力調査において、全国平均以上である調査項目の割合を**60%以上**にする。(現在20%)
- 運動好きな児童生徒の割合を65%以上にする。(現在56%)
- 運動・スポーツをほとんどしない児童生徒の割合を5%以下にする(現在9%)と同時に、運動・スポーツをほとんど毎日(週3日以上)する児童生徒の割合を80%以上にする。(現在64%)

### イ 体力向上に関して抱える組織的な課題を解決するための目標

- 体力づくりの取組について学校間格差をなくし、児童生徒がどの学校どの学級に所属していても、体力をつけることができるようにする。
- 体育専科教員活用推進校・体力向上推進校の体力向上に向けた優れた実践を他校へ広め、各学校における体育授業力等の向上に繋げていく。
- 学校が家庭や地域と連携しながら、体力づくりの取組を進めていく。
- 体育の授業等の体力づくりの取組を、自校の体力・運動能力調査結果等による児童生徒の実態に応じて実践していく。

## ③行動計画

### 【教育委員会】

- 全小・中学校の体育授業力の向上を図るため、小学校1校に体育専科教員を1名配置し、ブロック内の中学校と連携しながら当該校及び訪問校における取組の推進及び授業公開・実践発表の実施
- 全小・中学校の体育授業力の向上や充実した体力向上に向けた取組、さらには系統的な指導に資するため、市全体の体力に係る実態についての説明・優良事例の紹介等の内容による年間2回(5月・2月)の体育主任会議の実施
- 家庭や地域における運動習慣確立の推進
  - 全小学生の家庭において、縄跳びタイム(平日10分間)の設定・実施
  - 毎週水曜日から午後8時から全市一斉親子(保護者と子ども)縄跳びタイム(10分間)の設定・実施
  - 全市統一した国東市縄跳び名人ステップ表(仮称)の作成
- 全市統一した児童生徒一人一人の体力・運動能力調査結果記録簿(様式)の作成

### 【学校】

- 全小・中学校において、児童生徒の実態に応じた内容で、通年にわたる休み時間等を活用した体力向上に向けた取組(一校一実践)の設定・実施(週3日以上)
- 全小・中学校において、すべての体育の授業の導入部分で、各学校の児童生徒の実態に応じた内容の基礎体力づくりトレーニング時間の設定・実施
- 体力向上に向けた取組の充実を図るための体育環境の工夫・改善
- 可能な小学校において、体育の授業が得意な教員が自分の担任している学級以外の学級においても体育授業が実施できる交換授業の促進
- 体育専科教員の公開授業に、各小・中学校から1名以上参加**
- 家庭や地域における運動習慣確立の推進
  - 全小学生の家庭において、縄跳びタイム(毎日10分間)・一斉親子(保護者と子ども)縄跳びタイム(毎週水曜日から午後8時から)の推進
  - 全的に保護者が送り迎えをしない自力登下校の促進
  - 協育ネットワークによる体育の授業・部活動における外部指導者の積極的な活用
  - 総合型地域スポーツクラブ・地域のスポーツイベント等への積極的な参加促進
- 全市統一した児童生徒一人一人の体力・運動能力調査結果記録簿の作成・活用**
- 一校一実践・基礎体力づくりトレーニング等について、体育主任が自校の体力・運動能力調査結果等による児童生徒の実態に即した内容で企画・立案し、校内の体育保健組織や運営委員会において審議し決定後、全教職員による実施

## ④工程(推進スケジュール)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
市「体力向上アクションプラン」の公表・学校「体力向上アクションプラン」の公表→H26からは達成状況も公表		
一校一実践の開始	一校一実践の工夫・改善	一校一実践の日常化
体育授業での基礎体力づくりトレーニング開始	体育授業での基礎体力づくりトレーニング内容	体育授業での基礎体力づくりトレーニングの確立
体育主任会議の開催(教職員の意識改革)	体育主任会議の開催(組織的取組の推進)	体育主任会議の開催(組織的取組の定着)
家庭での縄跳びタイムの取組開始	家庭での縄跳びタイムの工夫・改善	家庭での縄跳びタイムの日常化
指標による課題と成果の把握		
次年度の計画		

## ⑤成果指標(達成指標及び取組指標)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
達成指標		
○体力・運動能力調査において、全国平均以上である調査項目の割合		
30%	50%	60%
○運動好きな児童生徒の割合		
59%	62%	65%
○運動・スポーツをほとんどしない児童生徒の割合		
8%	7%	5%
○運動・スポーツを毎日(週3日以上)する児童生徒の割合		
70%	75%	80%
取組指標		
○一校一実践(全学年週3日以上)実施率		
80%	90%	100%
○体育授業での基礎体力づくりトレーニング実施率		
90%	95%	100%
○小学生の家庭における縄跳びタイム実施率		
75%	85%	95%